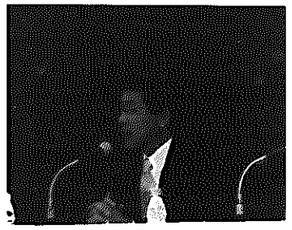
市政クリップ

政令指定都市に向け、新潟方式の発信と特性を生かしたエリアづくりを

新潟都市圏の将来像を考えるシンポジウム

二月十九日、「新潟都市圏の将来像を考えるシンポジウム」が聖籠町文化会館で開催されました。これは、新潟都市圏総合整備推進協議会を構成する八市町（新潟市、新津市、両津市、白根市、豊栄市、聖籠町、横越町、亀田町）の首長が一堂に会し、新潟都市圏の二十一世紀のまちづくりや政令指定都市を含めた市町村合併などについて、住民の皆さんと一緒になって考えるもので、今回で四回目の開催となります。

シンポジウムには、各自治体の関係者や住民など約六百人が参加し、首長たちの議論に耳を傾けました。その中で吉沢市長は、『今なぜ合併か』という論点で「私たちの生活圏域の広がりと一体化が大きい。白根地域（白根市・味方村・月潟村・中之口村）は新潟市と日常的な交流があり、一体化は十分に醸成されている。また環境問題や少子化問題など、一つの自治体だけで解決できない時代にきており、自立するためのまちの大きさや圏域全体の発展・調和を考えると合併しかない」と意見を述べ、合併への意欲を示しました。



合併に対する考えや今後の取り組み等について発言する吉沢市長

また、吉沢市長は政令指定都市を見据えた合併が望ましいと述べた上で、「そのためには区制あるいはそれに準じたシステムをつくり、新潟方式という形で発信できればいい」、さらに「それぞれの特性を生かしたエリアの役割分担を明確にすべきだと思う。白根地域は県内でも有数の農産物の産地であるので、その力を生かし、新潟都市圏における農産物の生産基地としての役割を果たしていきたい」と話しました。

そのほか、会場から「白根地域のリーダーとして、どう動くのか」との質問に対しては、「合併は白根地域が一体となって取り組んでいかなければならない」と答えました。

250点の力作を展示

中ノ口川さわやか交流展

三月二日と三日、白根学習館で「中ノ口川さわやか交流展」が開かれました。これは、中ノ口川沿線の白根市、味方村、月潟村、中之口村の住民からなる「中ノ口川さわやか交流展実行委員会」と「新潟地域広域市町村圏協議会白根ブロック」（同四市村）が主催したもので、今年で五回目を迎えます。

この交流展には、日本画・洋画・書道・写真・美術工芸の五部門で二百五十点の作品が展示され、会場に訪れた約五百人の観客は興味深そうに力作を鑑賞していました。

147人が表彰を受ける

平成13年度体育功労者等表彰式

二月二十四日、カルチャーセンターで白根市体育協会主催の「平成十三年度体育功労者等表彰式」が行われ、体育功労者と優秀競技者など百四十七人が表彰を受けました。

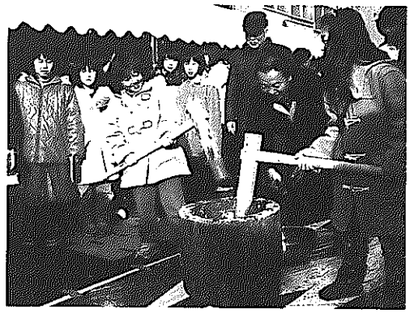
その後、「ワールドカップサッカーに期待すること　スポーツを文化に…」を演題に、沢村哲郎さん（新潟県サッカー協会理事長）のミニスポーツ講演会が行われました。

講演では、今年開催されるワールドカップサッカーの話のほか、「スポーツを文化にするためには、勝つためだけでなく、コミュニティーや健康づくりなどの楽しむスポーツができる環境づくりが大切です」と今後のスポーツの在り方について述べ、出席者は熱心に聞いていました。

TOPICS まちの話題

イベントで活気あふれる商店街

白根地区公民館 冬まつりinしろね



二月二十三日、白根商店街の新しい魅力を発見してもらおうと、白根地区公民館主催の「冬まつりinしろね」が行われ、およそ五百人が参加しました。

当日は、まだ冷たい風が吹いていながらも晴天に恵まれ、白根ミニパークをメーン会場にもちつき大会や豚汁のサービス、抽選会などが行われました。また、各商店会が趣向を凝らしてペットボトルや雪などで灯ろうを作り、夕暮れの商店街をライトアップし、楽しい冬の一日を過ごしました。

心のかぜは愛の力で治しましょう

茨曽根地区健康百歳教室

二月二十八日と三月一日の二日間、茨曽根地区の四会場で「健康百歳教室」が開かれました。これは「寸劇を通じて健康を考えよう」と同地区公民館と保健会が共催で開いたもの。今年で八年目を迎え、地元の出演者が自慢の演技を披露しました。

劇は、近所付き合いの難しさから「うつ病」になってしまったおばあさんを中心に展開。心の病の症状や治療方法などを分かりやすく表現しました。出演者のユーモアあふれる演技に、集まった人たちの笑い声と拍手が鳴りやみませんでした。

男・女・人 おしゃべりさろん ④

DV（ドメスティック・バイオレンス）って聞いたことある？（2）

配偶者や恋人など親密な関係にある、またはあった人から暴力を振るわれるDVには、殴る・蹴るといった肉体的暴力だけではなく、さまざまな形があります。

●精神的暴力

- 侮辱的、差別的発言で相手を傷つける
- 外出を制限するなど相手の行動を制約し、独占しようとする
- 生活費を渡さないなど家計の主導権をとり、相手に一切の裁量を与えない
- 何を言っても無視する、何かにつけ女性が劣位にあるような扱いをするなど、対等なコミュニケーションをとらない

●性的暴力

- 脅しや暴力で性的関係を強要するなど、意思に反する性的行為を強要する

●子どもを利用した暴力

- 子どもに暴力を見せたり、子どもに危害を加えることをほのめかしたり、女性から子どもを取り上げたりする

自分に落ち度があると思い込んでいる被害者は大勢います。また、暴力は一時的なものと思い込んでしまう人も多いのですが、再発するという性質を持っていて、多くの加害者はとても乱暴になったり、一転して反省の態度を見せて優しくなったりを繰り返します。気になることが少しでもあったら第三者に相談しましょう。

男女が社会参加・家庭参加する社会を目指して

2月22日に白根学習館で開催された白根市農業振興大会で、「男性にとっての男女共同参画社会」と題し、大阪大学大学院人間科学研究科の伊藤公雄教授を講師に招いて講演会が行われました。

講演会の中で伊藤教授は、男女という固定的な締め付けによる偏見（ジェンダー・バイアス）の存在が男女共同参画が進まない原因と提起。女性の社会参加の拡大や、男性の家庭参加を呼び掛け、男女共同参画社会の必要性を語り掛けました。